

ニ教導シ之ヲ演習セシメテ憂ニ彼此ノ差ナク一奏ノ私流ニ抑マサルヲ見テ而後實地ニ從事セシムヘシ

前件ノ外製圖ノ目的畧域ノ運搬三角及細分測量及其製圖三角及細分測量圖ノ集合施業ノ報告集合製圖及鑄版事務ノ整理等ニ全國測量ノ意見ト異ナルコトナシ

右ハ十二月十八日ヲ以テ遂ニ山縣參謀本部長ノ認可ヲ得タリ

### 海外時事 附 琉球處分

明治十二年一月十八日陸軍少佐山本清堅ヲ露國公使館付武官ニ任ス○三月十三日管東局員陸軍大尉土屋光春ヲ高陽少將ニ隨行セシメテ佛獨兩國ニ差

遣ス。○三月十五日管西局員陸軍中佐梶山鼎外及管  
東局員大尉山内長人ニ命ジ日進艦ニ使來シテ支那  
海及安南ヲ經テ新嘉坡地方ヲ視察セシム而シテ梶  
山少佐等、一行ハ右視察ヲ終ルニ七月三日帰朝復  
命セリ

二月十三日管西局員陸軍大尉益満邦外等琉球ヨリ  
帰京ニテ該地方目下ノ情況ヲ報告ス是レヨリ先キ  
客年十二月中参謀本部ハ益満大尉ニ出仕三原昌ヲ  
附シ琉球藩ニ差遣シ以テ該國ノ地理城塞道路橋梁  
風土人情糧食薪炭並ニ氣候等ノ件ヲ調査セリノリ  
リニ力大尉等ハ此任勢ヲ終ル遂ニ此日ヨリ以テ帰京  
復命シタリナリ茲ニ於テ参謀本部次長大山巖ハ琉  
球藩屬置ノ件ニ関シ即日岩倉右大臣ニ稟申シテ更

ニ内閣列議ノ事ヲ請求セリ即々九ノ如シ

、ニ 兼テ琉球藩へ出張、松田内務書記官モ昨今帰京

ノ趣承リニ 慶應ニ 藩本部ヨリ差遣置ニ 士官モ本

日帰京致ニ 然ルニ 同藩ニ 義ニ 付成嚴ニ 要ニ 以ニ 等

、御慶置ニ 有ニ 之様、候ニ 候得者兼ニ 外邦、舉動ニ

係ニ 件ニ 々ハ内閣へ列議、候ニ 二片昨十二月中建議

致置ニ 次第ニ 有ニ 之ニ 去ニ 若ニ 前條同藩御慶置ニ 可

有ニ 之様、候ニ 候ハ、現今本部長、病業ニ 二片下官

へ内閣、列議ニ 上ニ 出張可致様御沙汰相成度此

段閣下迄申進ニ 也

追ニ 本文太政大臣公へ可具陳候慶昨冬、建議ニ

閣下へ申上置ニ 候ニ 二片房尚又閣下へ具陳候條可

然相願候也

三  
考  
言  
才  
音

備考

參謀本部長或ハ次長ヲ以テ閣議ニ参列セリ

ルル件ニ明詔十一年十二月二十五日ヲ以

テ大山次長ヨリ陸軍省ヲ經テ其意見ヲ太

政官ヘ進達セリ要旨尤、如シ

嘗テ御制定、參謀本部條例ヲ按スルニ其

第四條中異邦、形勢ヲ洞悉シテ参画ニ備

リ遺算ヲキ云々、明文有之右異邦、形勢

ヲ洞悉スルニ於テハ頗ル至重、關係ヲ有

シ且寸時モ之ヲ忽カセシムヘカニナル候

ニテテ席ニ汎ク外邦、舉動風聞ヲ審覈檢

討シテ以テ参画、用ニ供スヘキハ目下、

急務ト存候就テハ自今太政府内閣、議事

外邦ニ涉ル件ヲハ機密ノ事ト雖モ毎時ニ

本 集 天 15

本部長次官、内列議トレテ出頭可致掃御  
沙汰相成度及上申候也

越ハテ二月十八日陸軍卿西郷從通代理陸軍少將小

澤武雄ハ宮中ニ召サレテ九、勅命ヲ拜受セリ

琉球藩分遣隊為増員鹿兒島分遣兵、内半大隊同

藩ハ出張之事

依テ小澤少將ハ直々ニ西部監軍部ニ向ツテ右勅命

ノ下リタルヲ傳達セリ而シテ其翌十九日ヨリ参

謀本部ヨリハ更ニ管西局員益満大尉ヲ琉球ニ差遣

シ該地出張中分遣隊ニ對シ参謀ノ事務ヲ司掌セシ

ムルトナセリ續クニ三月十一日大山参謀本部次

長ハ琉球廢藩置縣ニ關シ在琉球益満大尉ニ尤、訓

令ヲ具ヘタリ

此度琉球藩御處置、候ハ藩ヲ廢シ縣ヲ置カニ候  
様、義モ可有之候ニ付自然或嚴ヲ要シ多少共ニ  
用スルニ至ル可キモ難計就テハ處置向島端松田  
大書記官ニ御委任相成居候間細大同人、打合取  
計可申右ハ兼テ申倉置候得共更ニ為心得相違候  
事

三月二十五日西部監軍部長陸軍中將三浦梧村ハ琉  
球事件ニ付其管下ノ軍隊移動ノ件ニ関シ尤、意見  
ヲ參謀本部長ニ具申ス其略ニ曰ク過版熊本鎮島管  
下鹿兒島介屯歩兵一大隊、内中大隊琉球藩ニ出張  
員残中大隊ハ更ニ下命アル迄鹿兒島ニ駐屯、若シ  
リレカ其後陸軍卿ヨリ其残中大隊モ何時出張ヲ命  
セラル、ヤモ難計ニ付給養向一切準備可致旨ヲ達

シタルニ依リ萬一、場合ニハ貝嶺補トシテ小倉管  
頭ヨリ貝嶺大隊ヲ鹿見島ニ移駐セシメ度旨能本鎮  
台司令官曾我祐準ヨリ伺出タレモ摺接、熟考スル  
ニ鹿見島地方ハ近來逐日縣治モ整頓シ別隊兵備、  
緊急ヲ認メロルヲ以テ縱令鹿見島駐屯兵ヲ全部ヲ  
擧テ一時他ニ出張セシムルモ之カ爲メ貝嶺補ト  
シテ小倉管所、軍隊ヲ更ニ同地ニ移駐セシムルニ  
及ハス云々依テ大山參謀本部次長ハ即日貝嶺見ニ  
同意、昔ヲ回答シ事遂ニ止ニタリ○四月一日在琉  
球管西局長益満大尉ハ管西局長桂太郎ニ尤、電報  
報告ヲ呈出セリ『昨日首里城ヲ侵取リタリ膚地ハ至  
極平穩ナリ』ト此報告ハ四月一日那霸港発、便船ニ  
托シ之ヲ鹿見島ニ送り同月五日午後六時四十分鹿

見島亮電同日午後八時三十分參謀本部ニ着信不續  
同日月十三日ニ至リ曩キニ三月三十一日琉球城領  
収、日益滿大尉ヨリ參謀本部長ニ呈出セル尤、報  
告モ亦參謀本部ニ達セリ即チ尤、如シ

今三十一日午後第二時三十分令遣隊中數現負百  
六十名大隊長波多野少佐義次引率首里城中山門  
内ニ整列且下官出張午後第三時處分官内勢大書  
記官松田直之丞會、上首里城相受取即チ兵一中  
隊屯營致候此段御届申上候也

此報告ヲ得ルニ及ンテ始メテ具情況ヲ詳ニスル  
得リリ○六月十二日沖繩縣令遣兵交代五ニ鹿見島  
屯在兵引揚、件尤、通り裁可セラハ

膏ニ増負トシテ令遣、兵隊其此節急皆引拂更ニ



一 中隊ヲ熊本鎮台ヨリ派遣シ前分屯兵ト交代ノ  
事鹿見島屯在ノ兵モ保セテ引拂ノ事

六月十三日臨時琉球分遣隊長陸軍少佐波多野義次  
ハ午後二時步兵才十三隊司令陸軍中尉佐土原祐  
吉ニ首里城ヲ交付シ其翌十四日部下ノ兵ヲ率ヒ益  
満參謀ト共ニ汽船豊瑞丸ニ乗組ニ那霸港ヲ奏シ同  
十六日鹿見島ニ歸着ス此ニ於テ琉球ノ事全ク平穩  
ニ歸ス

六月十六日管西局長陸軍中佐桂太郎ハ方今清國朝鮮  
沿海ノ地誌五地圖ヲ詳カニト有事ノ日ニ當リ其参画ノ  
圖略ニ供スルハ目下緊急ノ要務トナレシカ爲メ有爲ノ將校  
若干名ヲ清國ニ差遣セラレシテ申請日並ニ其要旨ヲ立  
案シテ之ヲ參謀長ニ呈出シ其允許ヲ得タリ左ノ如シ

管理將校心得

第一條 此將校ハ支那各地駐在將校ニ関シタル

一般ノ事務ノ管理ニルカ為メ上海ニ駐在シテ

百事ノ便宜ヲ計リ俛セテ各員ノ取締ヲ任ス可

キ事

第二條 各地駐在將校ヨリ送り來ル處ノ報告書

ハ速ニ之ヲ參謀本部長ニ送呈ス可キ事

第三條 支那一般ノ形勢ニ注意シ各地ノ將校ト

時ニ通報シテ緊要ヲ行フルハ如キハ速ニ參謀

本部長ニ報告ス可キ事

第四條 參謀本部ヨリ命令各地ノ將校ニ關ス

ル者ハ速ニ之ヲ轉達スル事

第五條 參謀本部ヨリ各將校ニ送附スル處ノ資

金ハ上海ニ於テ受取リ夫々計算シ帳簿・記載  
シテ之ヲ配送シ各將校ヨリ收領書ヲ受取リ置  
ク可キ事

第六條 本邦及各地駐在將校ニ通報、郵便税電  
信料又資金旅費等、輸送費保険料爲換料其他  
右ノ屬スル諸雜費并ニ筆紙墨新聞買取費、類  
々準備金ヲ以テ拂出シ實費計年ヲ立テ半年毎  
ニ取纏メ歲謀本部總務課長ニ申告ス可キ事

第七條 此官萬一病氣若クハ事故、因ニ本務ヲ  
察ル能ワサル如キ事アラハ一時上海駐在將校  
ノ内ヲ以テ代理ニ充ツル事アル可シ

清國派出將校兵略上偵察心得

凡此偵察ニ從事スル者ハ先ニ清國派出將校心得書

ノ諸項ヲ詳カニ推考討究ニ並ニ彼我ノ軍制兵力ヲ  
了知シ之ニ基キ支那ニ於テ交戦ス可キ地ト方畧ト  
ニ撰定ス可キ是我軍ト支那軍ト比較ニタル多寡強  
弱ニ從テ其適合スル地形モ戰畧モ俱ニ亦タ異ナ  
ルニ因リ預メ明ラカニ其利害ヲ討究シ以テ戰時ノ  
畫策ニ備フル爲メナリ故ニ偵察者ニ今假リニ我兵  
ヲ以テ支那ヨリ寡數ニシテ且其塔兵タルニ因リ萬  
緒一步ノ力ヲ讓ル者ト想定ニ漫リニ驕傲ノ憶想ヲ  
以テ偵察ヲ忽セシムル事無ク萬全必勝ノ法ヲ擇ビ  
遺算無カラシムル要ス依テ其兵畧上偵察ノ欵ヲ定ム  
ル尤メ如シ

第一款 我兵上陸ノ地ヲ擇ビ又其上陸ニタル後  
ハ本據トシテ可キ營所其他一般ノ給養皆敵地ニ

揚ルルヲ目的トス

又ハ然リ先ツ其上陸ニ至便ナル地ヲ擇ハサル

可ラス然シナカラ譬ハ上陸ニ易キ地ナリ氏或

ハ堅固ナル堡塞ノ備ハアルカ或ハ赤地千里水

糧ノ頼ル可キ無キ地ノ如キハ大ニ擇フ所ニ非

ズ萬一止ムヲ得スシテ堡塞アル地ハ上陸セシ

トスルモ成ル可ク其砲撃ヲ避ケ我兵ノ為ニ害

ナキ地ヲ擇フシ緊要トシ且ク彼是ノ斟酌ヲ為

シラ便宜ノ港灣ヲ搜索シ兼テ船舶ノ有無多寡

等ヲモ調査シ若シ得ル能フサレハ如何方畧ニ

ヨリテ軍隊ヲ上陸セシム可キヤヲ討究シ又上

陸シタル後ハ兵ニ何レノ方向ニ進ムルニ係リ

ラズ其上陸所ノ近傍ニ於テ必ズ本軍ノ根據ト

之可キ地無ル可ラス而其本據ハ糧食其他給養  
等ニ便ナル城市アル地ヲ以テ家ニ適スル者ト  
ニ併セテ其近傍ノ地理要害モ亦精密ニ注意ス  
可キ所ナリ且給養一般ノ事ヲ辦スルニ到底  
土人ノ力ニ頼ミサル可ラサルカ故ニ其上ノ官  
署倉庫寺院民舎ヨリ人氣ノ良否貧富産物賣買  
上ノ景況又人夫ヲ使用スルノ方法并ニ僱役ノ  
賃材料魚肉蔬菜ノ有無價直等ニ至ルマテヲ探  
知ニ以テ幾多ノ人馬ヲ養ヒ得可キヤヲ思考セ  
サル可ラス又其本據トス可キ地ヨリ何レノ都  
府村落ニ達シ得可キヤ其距離順路間道或ハ分  
路ノ險易開障ニ從フテ行軍及攻守ノ方畧又河  
流ニ於テハ渡頭ノ景況架橋ノ方法等ヲ綿密ニ

推究スル等最緊要ノ事タリ

第ニ款 彼我其主トスル處、兵種ニ差異アルヲ

以テ交戦ノ方略ト位置トモ自ニ差異無カル可

ニス

今假リニ我兵ハ概スルニ歩兵ヲ以テ主トシ彼

兵ハ約子馬隊ヲ以テ主トスルノ差異アリトス

レハ彼レハ平野ニ於テ其技ヲ伸ルヲ得可シ我

ハ險隘ニ頼テ以テ其倆ヲ逞クスルヲ得可シ故

ニ其利益、在ル所ヲ考メ敵兵中何レカ我兵ノ

為ニ恐ル可キ者ナルヤ之ニ對敵スルニハ險隘

或ハ平野ニ於テ如何ノ方略ヲ以テ我何種ノ兵

ヲ用ニルヲ利アリトスルヤ又我兵ト同種ナル

敵兵ノ強弱多寡器械、良否ヲ察シ以テ其戦ヲ

交ユルニ方、我ニ利アルカ又我ニ大利ナキモ  
敵ニ害アル可キ地形ト方略トヲ探知考覈ス可  
シ而原素募兵ヲ以テ大敵ニ當ルハ迅速運動ヲ  
用ヒ我全軍ヲ以テ敵ノ分軍ヲ打破シ過ルヲ良  
シトスト云フ趣意ニヨリハ敵ノ全軍我ニ突ス  
ルヲ得可キ如キノ地勢ハ我ノ為メ大害カリ  
トス故ニ此目的ニ主要ナルハ障害カリ或ハ我  
ノ方略ヲ以テ敵ヲシテ兵ヲ分カクザルヲ得サ  
ラシムルノ地カ又ハ閑濶ナルヲ切斷セル如キ  
地ヲ擇フヲ以テ良トス茲ニ又注意ス可キハ所  
謂彼ヲ知テ我ヲ知ラサル為ニシテ敵ニ害  
アル地ノミヲ認メ其我ニ害アルヲ志ル、事最  
戒心ス可キ事ナリ



第三款 交戦ノ目的ニ就テ偵察ノ緩急

凡ソ一國一州ト交戦スルモ其大眼目トスル處ハ必ス彼レノ險要ヲ破フツテ後進ニ其首都ヲ陷シイルハニアリ各國皆其都府及ヒ要衝ノ地ニ於テ防禦法ヲ嚴ニスル之ニ其所以ナリ故ニ其地形ヲ探知スルモ方略ヲ立ツルモ宜ク此目的ヲ以テ基本トセサル可ラス果シテ然ラハ支那地ニ於テ戦時ノ爲ニ地形ヲ探リ方略ヲ定ムルモ其險要ヲ破リタル後ニ必ズ其首都ヲ擣ルニ最ニ便捷ニシテ利アル可キ路線ニ就キ此目的ヲ達ス可キ者トス故ニ以テ探偵者ニ此緩急ニ注意シ便令探偵法ニ於テハ一些事一小地ト多ク觀察ヲ忽ニス可ラサルハ勿論ニシテ又戦

況ニモ徒フ者ナリトハ多ク成ル可ク我兵ヲシ  
テ迅速ニ其首府ニ迫ルヲ得可キ方向ノ地ヲ主  
トシラ尤モ精密ノ偵察ヲ為スル際要ナル可シ  
第四款 兵畧上要地

兵畧上地理ヲ推究スルノ際要ナルトハ既ニ前  
諸款ニモ記載シタルカ如クナリトモ尚其大  
要ヲ爰ニ挙ク宜ク預メ之ヲ暗記シ以テ地理推  
究ノ用ニ供ス可シ

第一 首路ヲ管轄スル城堡或ハ要害

但首路ノ交叉點輻輳スルニ隨テ其要害々々大  
ナリ

第二 鐵橋石橋木橋ヲ論セス凡ソ大河ニ架  
スル永久橋梁ヲ管轄スル城堡

但ニ大河合流、處ニ築キタル城堡ニシテ  
西河ノ通過ヨリ管轄スル時ハ其要更ニ  
大ナリ

第三 山脈ヲ踰ヘテ通過スル敵軍ヲ防遏ス  
可キ城堡

但西山脈、湊合セシ點ニ築キタル城堡  
ニシテ西溪谷間、通過シ防遏スル時ハ  
其要更ニ大ナリ

第四 要港ニ在テ海面ヲ管轄スル城堡  
凡右等ノ地ハ戰畧上ノ要地ナルヲ以テ地理  
ノ研究スル時ニ方リ周子ヲ意ヲ注キ蒼卒ニ看過  
ス可ラザル者トス

第五款 某國ノ軍政上ニ於テ始メヨリ之ヲ輕視

スル時ハ取ル可キアルモ言テ、顧リミス又之  
ニ心醉スル時ハ弊害アルモ之ヲ指摘セル能ハ  
サルニ至ル者ナリ直ク虚心平氣以テ偏見ヲ除  
クハシ  
清國軍隊、編制ハ自國旧来ノ兵法ヲ以テ之間  
々雜ユルニ歐米ノ法ヲ以テスト墨モ未タ紀律  
、整然タルヲ看ズ然レハ清國政府、之ヲ爲ス  
ハ地勢人情ヲ度カリ取捨折衷、間或ハ二三、  
其直キヲ得ル者アリシ當ニ兵制、ミナラズ制  
度文物モ亦然ラサルナカレバ夫レ寸々長キ  
所アリ尺モ短キ所アリ探偵上寧ク彼ノ短ヲ拾  
クニヨリ彼ノ長ニ着目スル中、則チ却テ我  
裨益アル淺敷ナラズ萬一輕視シテ唾棄スル如

キアハハ僻見ヲ免レサル、ミナリス将ニ大業  
之ヨリ萌サスニ至ラレ其地ニ往クモ、亘ク心  
識目撃シ勢ヲ其要領ヲ得ル、注意ス可シ  
清國派出將校心得

凡偵察ハ其國ノ地理風俗ヲ詳カニシ政教、因ル  
所ヲ明カニシ推テ以テ兵制強弱貧富、勢ヲ揣リ  
萬緒仔細ニ考究シテ一朝或ハ盟破レ好絶ユルニ  
方リ我軍隊、為ニ實際至良、便ヲ興ハシテ預  
メ計畫スルニ方リ而今此偵察ヲ支那ニ施サント  
スルニ方リ其任ニ膺ル者ハ務メテ着實ニ肯トシ  
帝ニ荒唐ナル書籍ヲ持テ或ハ無稽ナル耳語ニ偏  
シ聞ク所ヲ以テ想像ヲ起スラセズ必ズ躬自ニ實  
地ニ徴シテ以テ支那現時ノ形勢ヲ精覈ニ考定シ

將來軍國、爲ニ至良、計ニ研究選擇ス可ニ苟モ  
輕忽ニ流レテ粗放ナルハ最モ戒ル所ナリ且以夫  
レ支那、風クハ從來虚文繁禮ニシテ伎、藝、祥、  
厚文唱酬、詩賦、如キ纖弱駢麗虚ヲ崇ヒ實ヲ失  
スル、弊實ニ今日ニ極ルト謂フ可ク故ニ該國ニ  
在ル者我邦人ト虽モ彼、接着スルニ從ヒ知ラズ  
々々彼、弊習ニ漆着シテ自ら異マサルニ至リ到  
底一何無氣力、文人ヲ陶冶スルニ外ナラサルニ  
至ル是誠ニ怖ルヘク戒ムハ、一、大要事ナリ又  
偵察上人或ハ細小ノ件ト認メ之ヲ既ニスル者ア  
リト虽モ氏蓋ニ此諸件ヨリ來ル者ハ最モ弊要、者  
ナレハ細大トナク詳細探知シ且暗膺セサル可ク  
ス而素ト視察、屬スル項ハ時トシテ其國ノ嫌疑

觸ル、一無シトセズ殊、支那、其俗猜忌深ク  
 外人ヲシテ其國事ヲ探知セシムル等、大モ惡ム  
 所ナレハ自ラ歐米諸國、同濶ナル、比、非、故  
 偵察ヲ為サントシテ萬一粗暴侮謾、拳動カ  
 カ如キハ却テ為、意外、變ヲ生ズル無シトセズ  
 是素ヨリ觀先、本旨、負クモノナリ故、最モ微  
 テ自ラ戒飾シ敏捷ニシテ輕薄ナラズ沈重ニシテ  
 退縮セズ小心致ク能ク耐、能ク懣、彼レニ對ス  
 ルニ倍ヲ以テシテ疑ヒカウシメ行止ヲ敬ミテ名  
 譽ヲ玷ケサルヲ意トシ宜ク活機ヲ操用シテ偵察  
 從事ス可キ者トス因テ今其偵察法ノ概略ヲ左  
 ニ陳スト虽モ敢テ之ヲ以テ尽セリトスルニ非ズ  
 須ク尚考究討查ス可シ

地形風土

山川湖海城堡市鎮村落沼澤港灣、位置景况時氣、寒暖地質、乾濕人烟、粗密貧富風俗、良歹厚薄地勢山脈、高低險易原野森林、開蔽斷続大路、同道、廣狹通塞、其路線、通々、城市港灣或、村莊、至々、距離難易其迹跡、河流、渡頭、橋梁廣狹水深水勢、緩急乾溢鱗族、有無種類水、結、候、又其水源、出、地方其水流、經過、都邑、故、注、港、灣、船、泊、潮、涸、程度遠近等、調査、其、海岸、之、港、灣、之、位置、形、狀、風、潮、之、善、惡、船、艦、碇、泊、可、否、及、淺、深、上、陸、下、船、之、難、易、等、之、觀、察、之、或、之、圖、誌、之、記、之、或、之、看、取、圖、之、製、之、以、テ、將、來、ノ、用、ニ、供、ス、可、シ、但、之、寫、圖、筆、記、ニ、係、リ、テ、之、ヲ、作、ル、ニ、成、ル、可、ク、



彼彼ル、嫌疑ヲ避ル、法ヲ用ユ可シ

運輸ノ便否

大小砲銃及攻守ノ諸具、彈藥、糧食、其他百般軍須、  
物資ヲ運輸スルニ地形ノ險易、凹凸道路ノ廣狹、遠  
近江河ノ淺深、舟筏ノ通否、水勢ノ緩急、沿岸道路、交  
又ノ景況ハ素ヨリ土人平常運輸ノ仕癖ヲ探知シ  
此地ヨリ彼地ニ重重大ノ物品ヲ輸送スルハ車載ヲ  
便トスルカ人夫ヲ用ユルカ牛馬騾驢ノ駄獸ヲ用  
テ負擔索引セシムルニ非レハ能ワサルカ其近傍  
牛馬等ノ概數及駄鞍ノ設置如何、且其地方ニ適當  
ノ車馬等輕便ノ器アラハ圖面ニ寫シ或ハ製造ノ  
法ヲ諮詢シ凡幾何ノ物品ヲ運輸スルニ奉知ヨリ  
幾何ノ車馬ヲ送ラサレハ運輸ヲ妨ルカ其地方ニ

就ヒテ裁許ヲ採取ス可キ力又水運セハ舟楫ハ某  
地ニ就キ裁許ヲ得可キ力或ハ港灣ニ就キ端船ハ  
裁許ヲ使用シ得可キ力凡大小力教ヲ豫算シ又其  
港灣ハ時季或ハ風雨ノ候ニ因リ水揚、不便ナラ  
ハ其近傍ニ適宜ノ港灣アルヤ否ヤヲ調査シ又各  
地土人ヲ使用スルノ法及平常ノ僱役賃ヲ詢ハ凡  
裁許ノ人丈ヲ駆役シ得可キ力總テ搬運ノ利害得  
失ニ就キ預メ目算ヲ立ツハシ

糧食薪炭

各地ニ播種スル五穀等凡歲收ノ品目概數田畑ノ  
廣狹土壤ノ肥瘠竹木瓦石薪炭草秣ノ品類大小多  
寡鳥獸鱗介塩噌醬酒油骨ノ有無美惡或ハ他國ヨ  
リ輸入ノ便否平常輸入品ノ多寡有無土人常食ノ

物出等凡其地ニ就ヒテ兵食ニ求需セハ發許ヲ蒐  
集ス可キヤ或ハ近傍城市ニ至ル發許里ニシテ幾  
日ヲ経レハ幾多ノ糧食ヲ某地ニ運致ス可キヤ幾  
萬ノ兵ヲ出ス時ニ幾日間ノ預備ヲ以テスレハ其  
他ノ地方ニテ需用ニ得可キヤ該地ニ井水ヲ用ユ  
ルヤ流水ナルヤ水質、清濁鹹淡食用ニ充ルニ鹹  
濁ノ水ニ如何ナル方法ヲ以テス可キヤ又平日ノ  
諸物價ヲ採聽シ傍ニ其木竹藁葦ノ焚炊ノ用ニ供  
ス可キヤ土人ノ常ニ用ユル薪炭ニ如何ナル者ヲ  
使用スルヤ否ヲ探リ其土地ニ於テ食需ニ缺乏セ  
サル使法ヲ討究ス可シ

### 被服陣營

軍隊ノ被服装具其他宿營露營等ノ具ニ充ル可キ

者何レノ地ニ何品ヲ産シ何品ニ幾許ヲ何地ニ得  
 可キヤ或ハ土地砂礫粘土又ハ泥濘沼澤等ニシテ  
 軍隊穿靴、使否如何差ニ草靴ヲ要スルカ如キハ  
 何地ニ就テ多數、藁ヲ收集シ可キカ或ハ本邦ニ  
 仰テ非レハ得ル能ハサルカ何レノ地方ニ綱繩  
 ニ用ニシテ麻藁葦、之ニヤ又彼ノ邊ニ屋舎或  
 ハ社寺等ニ障壁トス可ク其大小廣狹如何此邊  
 ハ天幕或ハ藁廠ニ非レハ滞陣ス可キナルカ天幕  
 輸送ヲ要スルカ藁廠ハ容易、其材料ヲ得可キ  
 カ土地ノ時季寒暄ニ因リ防寒避暑ノ法如何平常  
 其土ニ流行スル疾病ノ性質如何庖厨其他需用器  
 具、櫛櫛如何等凡テ寒暖、適應シテ被服及駐營  
 便宜方法ヲ考察ス可シ

兵制及諸製造所

以支那、兵制、現今用ユル所自國、古式或ハ洋式ヲ錯用シ從テ各省皆多少、差異アルカ故ニ探偵者ハ先ニ其一般、兵制ヲ明カニシ次ニ各省各府<sup>州</sup>縣ニ就ヒテ八旗兵練營兵水師等ノ分屯法并隊制及、是ニ管督スル現任、提督ヨリ總兵副將參將遊擊都司守備千總把總等、官種人員其姓名人物、優劣又兵ヲ駐スル城郭砲臺、位置景状險易等ヨリ兵ノ多寡強弱平常操練、法其熟不熟不用、器械種類精粗ニ至ルマテ都テ兵制一般ノ事ヲ探索シ又製造所ニ造船所器械製造所火藥製造所等、就ニ其造船ハ是迄ニ製造シ外國ヨリ購求シタル船數噸數馬力砲數船舶、種類景状及運送船

并ニ支那從來、兵船砲船、大小有無多寡景状等  
ヲ知り又機械製造所、其位置大小製出セル銃砲  
彈丸器械、種類粗精多寡ヨリ其銃砲彈丸、何地  
ニ送リテ何種ノ兵、用ニ供スルカ、如リ精細ニ  
調査シ火藥製造所、其火藥、性質製造、方法多  
寡貯蓄倉庫、所在等ヲ詳ニマ可シ

六月二十日參謀本部内將校以下、官員ヲシテ海外  
ニ派遣セルハ節、手續ニ付西郷陸軍卿ヲ經テ三條  
太政大臣ニ允、向テ出シ其許可ヲ得タリ

本部ニ於テ持合書ヲ下付シ派遣セルハ一付  
大山次長ト陸軍卿ト協詳ナリ

特ニ秘密ヲ要  
スルハ參謀

官員及生徒ヲ海外ニ派遣セルハ庸者職制及  
事務章程第六十四條掲載ノ通奏請、上太政官ヨ  
リ御沙汰相成候例規ニ有之候處參謀本部内將校

以下、官員ヲシテ海外、派遣セリノ候ヌハ他、  
官員派遣、振合ニテハ多ク支候處モ有之候間自今  
參謀本部内將校以職課ニ奉海外ニ派遣セ據ル候  
節ハ陸軍將校、職課ニ奉免スル、例ニ據リ陸軍  
卿參謀本部長連署、上裁ヲ乞ヒ先可、上於當者  
直ニ派遣、義相達ニ候様致度此段相向候也  
追テ本文御聽許、上ハ派遣、官員海外旅券、義  
々當者ヨリ直ニ外務省、驛會邊掃與處渡方取  
計候様豫メ外務省、御達置相成度此段申添候也  
六月二十七日參謀本部出仕陸軍大尉志水直等十一  
名、將校ヲ清國ニ差遣ス○七月十九日管西局長桂  
太郎同局員陸軍大尉和智重任同出仕陸軍中尉伊集  
院兼雄ヲ清國ニ差遣ス○八月九日管西局員陸軍中

尉福島安正ヲ清國北部ニ同十五日日出仕陸軍中尉渡  
部廣次ヲ其南部ニ差遣ス

十月二十一日管西局長陸軍中佐桂太郎ハ支那語通  
譯生徒留學中、心得書ヲ呈出し且ツ該生徒等、取  
歸シ上海駐在、志水大尉ニ命セラレ度旨ヲ具申シ  
並ニ其允許ヲ得タリ是レヨリ先キ桂管西局長ハ支  
那及朝鮮語、通訳ヲ養成スルノ必要ヲ認メ本年一  
月中ニ於テ其意見ヲ山縣參謀本部長ニ具申セリ其  
略ニ曰リ

凡ソ支那朝鮮等、國ニ於テ我陸軍ニ関スル諸件  
ヲ探偵シ地理ヲ精査シテ地圖ヲ製シ時事ヲ詳記  
シテ政誌ヲ造ルハ即チ管西局ノ管掌スル所ナリ  
故ニ局員若干名ヲ以テ通譯級地ニ派遣シ其地ニ



就之ヲ研究之時々本邦ニ報送シテ地圖及政誌  
 参考ニ備ヘシム然レモ一旦事アルニ備テ彼國  
 ト兵ヲ接スルノ際ニ至テハ縦令極メテ明細ナル  
 地圖及詳述セル地誌アルモ其言語ノ異ナルヲ以  
 テ我軍隊ニ要スル通辭若干負テ得ルニアラカレ  
 ハ何ヲ以テ我軍隊ニ必要ナル所ノ要務ヲ辨理シ  
 テ其肯綮ニ中ルヲ得ンヤ是レ最モ缺クヘカラサ  
 ル、一事ニシテ而シテ未ク審テ我陸軍ニ於テ着  
 手セリル所ナリ然レモ此通辭ヲ得ンカ否ノ現ニ  
 服務セル將校ヲ以テ之ニ充テ語學ノ之ニ從事セ  
 シハルハ本意トセカル所ナレハ後來士官學校ヨ  
 リ該國語ニ通スルノ士輩出、日ニ至ル迄先ツ及  
 リニ若干名、生徒ヲ募リ語學生徒トシ年限ヲ定

ノ支那及ヒ朝鮮國ニ派遣シ、且語學ヲ學ハレ、ノ成  
業ノ日ニ至リ陸軍ニ採用シ參謀本部ニ出仕セシ  
メ支那及ヒ朝鮮ノ通辯トシ平時ニ在ラハ士官學  
校内ニ於テ支那及朝鮮等ノ語學科ヲ設ケ之ヲ教  
師トシ又支那及ヒ朝鮮ニ派遣セル將校ノ通辯ニ  
充テ戰時ニ在ラハ志ヲ團隊ニ分屬スル者トス云  
ク

右ノ意見ハ全ク本部長ノ容ル、所トナリ之ヲ実行  
スルニ決シ遂ニ此業ノ呈出ヲ見ルニ至レリ

支那語學生徒心得

一條

一 這回派遣ノ語學生徒ハ學業成就歸朝、上ハ必  
ズ陸軍ニ奉仕シテ通辯ノ職ニ服シ決シテ他ニ

轉職等不相成事

二 條

一陸軍従軍法ニ従ヒ各已ノ異存ヲ立ルヲ得ス  
而レテ諸事取締ノ余ニ随フ可シ

三 條

一凡ソ留學ノ年期ヲ三ヶ年ト定メ語學五ニ精通  
ノ官府文學ヲ修學スヘキ事

但年期内ト雖モ學業進歩ノ都合ニヨリ帰朝  
申付ルヲ有ル可シ

四 條

一留學中我カ本務學業ノ外他ノ學事ニ志カスヲ  
免サス

五 條

一先準ナリトテ我カ命セラレタル土地ヲ換ヘ他  
ノ地方ニ轉移スル等ノ事決シテ有ル可ラス

六條

一不良ノ徒ニ交リ品行ヲ惡クシ飲酒ニ耽リ金銭  
ヲ浪費スル等ノ事決シテ有ル可ラス

七條

一留學中級ノ國人ハ對シ粗暴ノ振舞ハ勿論都テ  
國體ヲ汚スルキ舉動決シテ有ル可ラス

八條

一若シ右各條ニ違背スル者アル時ハ速ニ歸朝申  
附學費辦償セリハ可キ事

十一月二十五日清國語學生徒柴田晃等十三名ヲ清  
國留學ヲ余ニ十二月三日之ヲ北京ニ差遣ス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0168